●キャンベラ号　香港・マカオ　船の旅〈2〉

香港からマカオへ

マカオで、神戸っ子クルーズのメンバー。右端筆者。

神戸港を出て、長崎をまわり、四日目の晴れた午後、英国豪華客船〝キャンベラ号〟はジャンクの浮かぶ青い海を進み、白い高層ビルのそびえる香港、九龍島、オーション・ターミナルに着きました。

香港の街は香港島と九龍島に別れ、香港島の方が商事会社などのあるビル街に高台の別荘地。九龍島はそれに比べ、商店がびっしり、ゴミゴミした感じがします。とにかく人と車がいっぱいで、お船でのんびりした身にはこたえ、よく交通事故が起きないと思うぐらいだけれど、不思議と余り起きないとか。それでも香港で事故にあったら、当てられ損、ひかれ損。とにかく全て金持ちに得なように制度になっていて、何事もお金でかたがつく、警察さえもです。

その夜はミラマ・ホテルで、宝塚歌劇みたいな古典舞踊を見ながら本場の中華料理を。このホテルは床も壁もフロントのカウンターもみな大理石でできています。別の夜に上のナイト・クラブへ連れて行ってもらいましたが、「レブロン」提供のファッション・ショーをやっていて、ホットパンツ、ガウチョ、当世流行のアップリケ・ドレスなどが登場。イブニングで装ったカップル（これは殆どヨーロッパ系）が夜の一時を過ごしている。でも街では流行の最先端というのは見受けられず、ただ街の店員さんを始めジャンクの貧し気な子供たちまで必ず良い時計をしているのが印象に残った。一度たまたま乗ったタクシーは後の座席が前まですべり落ちているというオンボロぶりだったが、世界の車も割安で買えるため、ベンツやアルファ・ロメオ、フィアット、ジャガー、キャデラックなどカッコイイ車がバンバン走っています。ロールスロイスでお客さんを案内するホテルもあるとか。

中国人は世界一番の悪食家という。猫でも犬でも食べてしまうそうだ。（そのせいかどうか？　やたら犬が多い）香港郊外の寺院に行ったとき、みやげもの屋や屋台が出ている。男性がニコニコうれしがって呼ぶので行ってみたら、だいだい色ににえる煮物。ニワトリの手！胃

右　タイガーバームで。これはストリップ・ショーをかぶりつきで紳士連が見てるという形になっている。
中　香港の難民部落。中央の汚ない屋根の下は市場。ところがすぐ横にはマイカーがずらっと停まっている。
左　香港・城壁で囲まれた部落。写真を撮ると、子供まで大声でお金を精求する。

がひっくり返って寒くなった。

次の日はフェリー・ボートで九龍島から香港島へ。碇泊中のキャンベラ号の傍を通るので〝ああ懐しのキャンベラちゃん〟とうれしがって、皆で写真を撮っていたところ、返り波が頭からザブーン！ぬれねずみと相なりました。しずくがポトポトという程だったのですから。

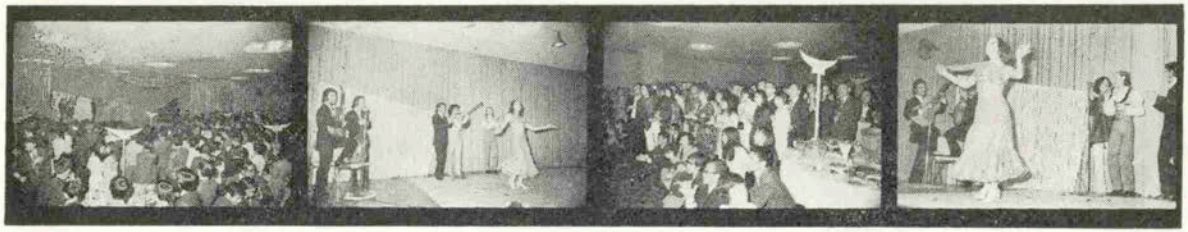
香港島中心地区の丘の中腹一帯を占める〝タイガーバーム・ガーデン〟は故胡文虎氏の二号さんの邸宅とかで極彩色の人物、天女像、鳥、動物像などが丘のここかしこに立ち、女プロレス像などもあり、日本人の眼にはエロ・グロ・ムード。当の彼女は現在も近くに住み、その娘さんは英国ケンブリッジ大学を出た大変な才女で、かつ大変な金持のため、男性が恐れて、四〇幾歳の今も独身とか。この付近には金持の別荘が多く、イギリス人は植民地で嫁いだ金を本国には持って帰れないので、花で囲まれた優雅な別荘に金をつぎこんでいます。一番気持良かったのはレパルス・ベイの海水浴場。白いマーガレットが咲き乱れ、浜辺では超ビキニのお母さんがキャンディみたいな坊やと日光浴。

香港からマカオへは水中翼船で約一時間半。国境の税関で、キャンベラ号で知り合った香港の税関のオニイサンに再会。時間があったら車で案内してあげるという話だったが、余裕なく断念。でも優先的に我々を通過させてくれました。マカオは南欧風の並木道の美しい国。住宅地は香港と対照的にひっそり閑。家の壁がピンクやクリームに塗られ、お偉方の邸宅もお菓子の家のよう。あのファッションの撮影がバッチリ出来るのに！なんて思いながらバスに揺られて行く。名高いカジノではライラックのチャイナ・ドレスを着た女性が胴元。熱気の中で現金がバンバン動いて行く。意外と中国人のオバさんがはり手に多い。我々山形さん、畝さん女の子三人も約一五〇円を元手に一行の内の最高額九千円を嫁ぎました。ただしスロット・マシーンであったのがお粗末でした。

（編集部／高田明子）

●スペインの名花フラメンコの
サラ・レサーナを迎えて

神戸っ子10周年酒祭り開く



春雨模様の四月十七日。本誌十周年記念の'71酒祭りが、オリエンタルホテル大ホールで開かれた。

恒例の酒祭りも五回目を迎えた会場は三〇〇人のお客さまで大盛況。さて本年は、フラメンコ舞踊の花サラ・レサーナと名手ミゲルサンドバルなどのチームをゲストに熱気あふれる集いになった。

オープニングは、小坂務さんのひきいるクワルテットがフラワーロードサンバを明るく演奏して、上月倫子バレー研究所のお嬢さん方が八人軽やかに踊る。

会場には、松の家・鈴亭、るふらん亭、ムーンライト亭、キャンティ亭、阿似子亭、大島亭、たこつぼ亭、盗賊の館亭、さち亭、ヌベール亭、S亭、小万亭などのテーブルに、灘五酉会の白鶴、白鹿、白雪、富久娘、菊正宗、多聞日本盛、桜正宗、忠勇、沢之鶴、金盃、大関などの銘酒が提供する樽出しの一斗樽が飾られて、竹のひしゃくで升酒をぐいぐいあおる。

宮崎神戸市長さんのお祝いのことばや砂野神戸商工会議所会頭のスピーチと乾杯の声に、舞台にずらりと並んだ、本誌編集部のスタッフはいささかあがり気味。

小泉編集長、チーフの小泉美喜子また高田明子、橋本明、小泉昭子、藤原保之、小畑知子などの面々が紹介されて花束が贈られ、神戸っ子の十周年を祝ってもらった。これからも神戸のユニークな都市雑誌に充実させたいものと心に誓う。

次は恒例の神戸酒徒番附'71年の表彰とそろい飲み。名誉横綱の砂野仁さんを初め、榎並正一さん、岡部誠一さん、貝原六一さん、元永定正さんらが出席が早く、舞台でミス神戸の井上尚子さん、桜井玲子さんや、元町レディスの川村浩子さんなどから灘の銘酒が手渡された。砂野会頭が「神戸っ子万才!!」と音頭をとって第一部の幕が閉まった。

会場は、灘の銘酒に加えて、アサヒビールがビールとジュースを提供してビールコーナーを、ロストシティがホストにあたり、サントリーは洋酒コーナーでサントリー・リザーブとカクテル、オールドを提供、またマンズワインは、フック東店と組んでワインコーナーをつくり大人気。

そして今年の初登場きゃんどるのオードブルとすいきょうの日本料理、ピノッキオの貝料理、かねてつのかまぼこコーナーなどは、味道楽な人々が押し寄せた。

サラ・レサーナ舞踊団の熱狂的なフラメンコに会場は、オーレ!サラ!ミゲル!と湧きに湧き、最後に神戸百店会から沢山の賞品が福引きでフィナーレを迎えた。

こんにちは赤ちゃん

芦屋市・田宮正史君

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科

芦屋市大枡町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
芦屋 (0797) 31—1234 代表

世界の一流品をあなたに

フランス Sol-Amor
ドイツ Rodenstock MARWITZ
アメリカ Ray-Ban
イタリー LASTES

SUN GLASS・MODERN EYE WEAR

創業明治10年・めがねの

モリカワ

さんプラザ1階・京町筋
TEL (078) 33-7134・39-0383

神戸遊戯誌93

鈴鹿に初の女性レーサー登場　星住輝子さん

関西スポーツカークラブ
副会長　矢吹圭造氏

関西スポーツカークラブ
初代会長　中尾忠義氏

関西スポーツカークラブ運営委員
石田　建城氏▶
◀星住輝子さん

★全国初の女流レーサーと今日の隆盛

関西スポーツカー・クラブ（ＫＳＣＣ）が兵庫県下に生まれたのは昭和39年4月である。それまでに東京ではすでに公認のクラブができていて各会員がスピードを競い合っていた。ＫＳＣＣの事務所は西宮市甲子園の「再会」という喫茶店に置かれ、初代会長は中尾忠義だったが、関西一円の同好者たちを組織化できたのは全く氏らの努力の賜物だったといえる。なお、同クラブの発会式は神戸の国際会館で行なわれたが、当時の会員のほとんどが神戸在住の人たちだった。だが、今日ではその数も四百人余に達して地域も東は名古屋から西は広島方面まで及んでいる。

さて、関西にクラブができたのは関東よりも遅かったが、クラブがレースをしたのは関西スポーツカー・クラブが最初だった。すなわち同年早くも鈴鹿サーキット（6・004メートル）を六十万円で借りて鈴鹿サーキットと共催で十周レースを行なったところ、人気は上々で観客の入りもよく成功をおさめた。このレースには十数台のモーターカーが出場したが、神戸の矢吹圭造選手が優勝して西宮市長賞を獲得した。彼は現在もＫＳＣＣの花形選手（同時に理事）であるが、この時はじつはまだライセンス（競技許可証）をとっていないのに走ったため日本自動車連盟から叱られたものだった。だが、レースは「自動車スポーツの華」といわれているだけに、レースの魅力は抜群で、同クラブではその後も毎年何回かの各種レースを催して各クラブ員の技術の向上と記録への挑戦を試みているが、そのつど何名もの優秀なレーサーを出現させてきている。矢吹選手は長距離選手だが（だいたい以前から関東には短距離レースが多く、関西は逆に長距離レースが多い）、昭和42年1月の鈴鹿の三百キロレースでもホンダＳ８００に乗って惜しくも優勝を

スポーツカー・レース②　青木　重雄

逸したが、2位となっている。矢吹の他にも同県下からは歳森康師（としもりやすのり）や増田万三、西野弘美らの優秀レーサーが生まれている。歳森は岡山県生まれ、16歳から早くもファクトリイ・ドライバーとなる早熟児だったが、神戸に出てきて例の「木の実クラブ」に加入、六甲山登りトレーニングで腕を磨き、まず昭和44年のJAFグランプリにみごと優勝した。現在は東京在だが日産のファクトリイドライバーとなっている。西野はSCCN大阪の所属だが、もともと兵庫県の生まれで、デビューは43年1月の鈴鹿三百キロ、フェアレディ二千で参加、総合4位、クラス2位となったが、昨年の鈴鹿耐久シリーズでは栄えある最優秀選手賞を獲得、この時の12時間自動車レースでは増田万三（スターダストクラブ）と組んで総合8位、GTクラス1位となった。なお、このレースでの優勝者は前述の矢吹選手（田中弘とのコンビ）だった。

「いつの間にか、幾周か回っていた。周回ごとに幾台かの車が、エンジントラブル、スピン、そしてクラッシュし、コースわきに、わびしくとまっているのを見る。あんなになってはダメだ。どんなことがあっても最後まで走るのだ。そのことだけが頭を占める」

ぬれたコースと、不慣れな車のため、より一層神経はとんがって、口はからから、舌はこわばる。（中略）幾度か前走車がスピンするのに、危く当たりそうになる。一瞬、ひやっとしながらそのわきを、なんとかすり抜ける……」

「きんちょうした何周かが過ぎる。もう少しだ！ガンバレ！〃ラスト〃のピットサインを受ける。いいようのないよろこびをかみしめながら、ピットに向かって手をあげ、張り子の虎のようになんども首を振る。（中略）スタンド前のコース中央に、チェッカー旗を見いだした時、何か熱いものがこみあげてきた。〃よかった。無事完走できた〃」

右の感動文は男性ではない女性レーサーの記録である。前述の昭42年鈴鹿サーキットでの公式三百キロレースに女性としての初の挑戦を敢然と果たした星住輝子さん（芦屋市在住、高級洋惣菜の店経営）が、「オール関西」誌上（同年三月号）に「三百キロレースを完走して」と題して発表した一文からの抜すいである。しかもこのレースで49人のレーサーに位して唯一の女性選手として最後まで敢闘、しかも堂々総合4位、クラス2位の栄冠を獲得したのだから全くすばらしい感激の体験レポートである。また「レーサーは自らを限界状況において、孤独に耐え、愛車を信頼し、スピードに賭ける。それは自分自身とのたたかいである」という自動車レースに最もふさわしい激しい人間条件に女性として耐えぬいた貴重なことばともいえよう。

もちろん彼女は全国初の女性レーサーだが、その後女性レーサーの数もふえ、KSCCだけでも約四百名中女性会員は現在十数人いる。ほとんど婦人、学生で年齢は18歳から40歳代まで。一方男性会員では会社役員はじめ中小企業主、学生などが多く、年齢も10代から60代までと多様。スピードに賭ける魅力と日本人レーサーの国際的地位の向上につれ、男女とも会員はますますふえる傾向にある。ただ、危険なこのスポーツを試みる人々が守らねばならぬ三つの約束として、「安全と態度と家族（一家で楽しむ）」を本クラブが会員に要望していることは絶対見逃がされてはなるまい。

創立後KSCCの代表者山口良夫氏から現在の西川純氏へと変わっている（事務所は西宮市甲子園口4丁目22・中田ビル2階）がこの関西唯一（名古屋を除く）の公認クラブのほかに県下には加盟クラブ、準加盟クラブ資格のものが神戸はじめ各地にたくさんできている。レーサー志望者はこれらの各クラブに入会するのが最も近道である。自動車レースのメッカの一つともいえる六甲山を持つ県下のドライバーたちの前途は洋々といえよう。（46・4月28日記）

あとがき・本稿の取材にあたりまして中尾忠義、矢吹圭造、星住輝子、石田建城各氏の協力をいただき有難うございました。

●世界の福祉施設ルポ〈3〉

老人と精神薄弱児との対話

The Foster Grandparent Program

橋本明

美しい緑に囲まれたシアトルの郊外に「ファークレストスクール」という州立の精神薄弱児の施設がある。

ある日、広々とした構内を歩いているとにぎやかな笑い声が聞こえてくるのでその方に目をむけると、数人のおじいさんやおばあさんが何人かの子供たちと元気よく追っかけっこをしているのが私の目に入った。それはこの施設で働いているフォースターグランドペアレント、とよばれる老人達だった。私がこの素晴しいプログラムを知ったのはこの時で、この計画は低所得者層老人の雇用対策の一環として一九六五年に始められ、現在では全米五十一州のうち四十州とプエルトリコで実施され素晴しい成果をあげている。

この計画は簡単にいえば、低所得者層の老人を児童福祉施設で雇用し、特定の老人と子供との一対一の長期的ラポート（信頼関係）をつけることによって子供の健全な成長をはかり、あわせて老人の経済援助も行おうといった主旨のものである。

この計画に参加できるためには、

①六十才以上であること

②もし一人暮しならその年収が千六百ドル以下（二人以上の場合は一人増えるごとに五百ドル追加）であること

③子供が好きであること

④健康であること

の四つの条件を満しさえすればよい。

この老人たちの仕事は、定期的に施設を訪問し、それぞれ決められた二人の子供たちの遊び相手になってやること、すなわち普通のおじいさんやおばあさんが家庭でいつもしているように、自分たちの「里孫」と遊び、食事時には食べるのを助けてやり、泣けばなだめてやったり、またちょっぴり甘やかしてやっていいのです。老人達は毎朝自宅から施設までスクールバスで送り迎えをうけ、一日四時間、一週間に五日間働き、賃金は一時間につき一・六ドルの割で支払われる。

子供との散歩はハンフリー夫人の日課となった

対象とされる子供は十六才以下であり、特に情緒不安定のため大人との愛情のこもった個別的なふれあいがその子供の健全な成長に最もプラスになると考えられる子供たちです。調査によると、大人との長期的、緊密な結びつきが子供たちの社会的、情緒的、さらには身体的発達にさえも非常に大きな役割を果していると報告されている。

現在アメリカには年収三千ドル以下の低所得者層に属する老人が約三千万人いると推定されているが、この老人たちの雇用問題が検討されている頃、故ジョン・F・ケネディ大統領によって精神薄弱に対する国家的総合計画が始められ、老人の雇用対策と精神薄弱児対策がここで手を結んだわけである。

一九六八年十一月の資料によると、ワシントン州では四つの州立の精神薄弱児施設で一七二人の老人が三四四人の精神薄弱児の、また全米では二千五百十六人の老人が五千三十二人の精神薄弱児のおじいさん、おばあさんがわりとなって働いている。

このプログラムは日頃個別的ふれあいの少なかった子供たちに大きな効果を与えただけでなく、老人たちにも子供以上の素晴しい効果がみられる。すなわち、この仕事による収入が彼らの生活の大きな支えになっているという経済的な面もさることながら、障害児たちのために働く喜こびが彼らの生活に大きな潤いを与えているという点も見逃せない。

何人かの老人たちにたずねてみると、

「私にはこれで毎日の楽しみができました」

「今までは何にもすることがなかったので朝になるのがいやでたまらなかった。でも今はこの子が毎日私を待っていてくれると思えば朝になるのが待ちどおしい」

「もう一度社会のお役に立てるのがうれしいね」

「この子供たちには私達が必要なんです」とほおずりをするカークさんの表情は明かるい

など、このような声はすべての老人たちに共通の声だった。彼らはこのプログラムに参加することによってカウンセリングや医療管理、社会保障その他のいろいろな特典をうけることができ、また同世代の老人と手を結びお互いに協力し、助け合うことによって孤立、孤独感に陥るのを防ぐこともできる。

この計画は今後精神薄弱児施設だけでなく、他の児童福祉施設や一般病院の小児病棟、あるいは結核や心臓病などで長い期間治療をうけている子供たちの医療施設などにも適用されることになっている。

おばあさんのひざの上で眠っている子供の安らかな寝顔、車椅子を押しながら散歩しているおじいさんの生き生きとした表情、一つ一つがこのプログラムの成果を如実に物語っていた。

子供の手をひきながら私を案内してくれた一人のおばあさんが帰りぎわにニコニコと笑いながら言った。「日本の不幸な子供たちやお年寄りの方々にもぜひこのような喜こびを与えてあげて下さい。世界中の国々でこんなプログラムが実施されれば素晴しいですね。」

動物園飼育日記——61——亀井一成

ある記者の詰問から

立ち上がってとっくみあう子グマ

動物園によっては記者クラブがあって、何かと私どもは取材される側の立場にあるのだが、この話は、その取材記者の問合せを逆に私の方が話のタネにさせて貰った。

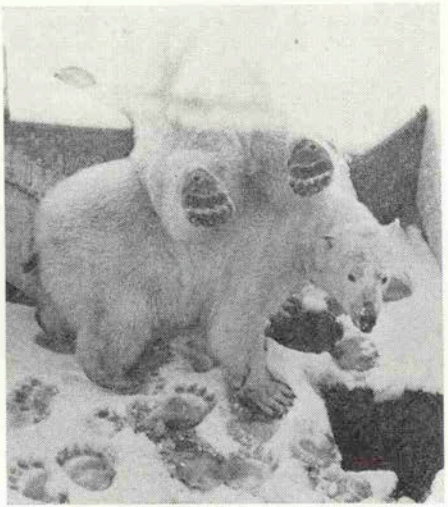
ある日、「動物のオスとメス。ずばり、どう見分ければよいか……」とたずねてきた。

動物と言えど、哺乳、爬虫、鳥類などがありますので……と、先づ問合せを何れかに整理しようとすると、「ケモノ」と答えてきた。

受ける側の飼育者にとって、この〝ケモノ〟つまり〝獣〟という言葉が、さきに、少々気にいらなくなってしまったこと、この際、勇気をもって知って頂くことにする。職業柄、動物たちには少なからず愛情をもっておりまして、と言うよりは、〝ケモノ〟と言う言葉のもつ世間さまのニュアンスに、オリの中に閉じこめられた動物たちに、かわって少々弁論してやりたい。私に、そんな気持を与える記者の話をきいていた。

そこで、こんな話も……。

餌を与える他に、動物たちの汚物の掃除は飼育係にとって欠かせない作業のひとつ。それも巨漢のゾウやサイともなれば大変なこと、このうえない。



雪の日にたわむれるメスとオス

そのゾウの糞尿を掃除する作業にでくわした大抵の人々は、そそくさと逃げだしてしまう。そのなかで、

「坊や、よく見なさい。飼育のおじさんたちのお世話で、あんなにきれいに……」。身なりは、みすぼらしくとも、こう話しかけ子供たちに見せている一組の母子がいた。じーと作業の終るのを待つようにみていた。その坊やは、手にした僅かなビスケットをいきなりあたえずに、「ゾウさんにあげていいか」と、問いかけ、係員のゆるしに、喜んで長いゾウの鼻先に、おそるおそる与えては、こおどりしていた。

動物園にきて、ただ単に珍らしい動物をみる、ということだけで終る人々の多い中にあって、この母親こそ、生きものをとおし、知らず知らずのうちに、人のいやがる作業の尊さ。〝あのゾウさんが一日でも長く健康で育つためには……〟という動物たちへの思いやりの心を、楽しく見せながら育てている。レクリエーション、研究機関、自然保護など、動物園として果す使命の多い中において、こうした大人たちの僅かな心づかいの中にこそ動物園がもつ最も大切な心の学習の場としての意義があることを改めて知って頂きたい。

野生へは二度と戻れない彼等は、必ずオリの中に死んで行く。この〝オリの中のいのち〟を預る飼育者として、ともすれば動物側にたち物事を考えすぎることもあるだろうが、あえておゆるし願いたい。

かって私は三頭のチンパンジーにオシメをつけての人工飼育をした時、〝このエテ公の名前は〟とたずねたお方には、勝手つんぼうになったことがあったが、この〝ケモノ〟という言葉にも何か、それに似たものを感じさせられてしまったのである。

そのうえ、こちらが、ほぐして行くやりとりで、やっとのこと、話しの本筋が解ったという、その〝カケヒキ〟のある質問によけいそんな感情をおこさせてきた。

しかし、話しの内容は、いま記したカチカチの前置きとはうって変った、こんな〝ないしょばなし〟だった。

ある動物園で取材中、ホッキョクグマ、一名シロクマ（以下シロクマと記す）の性別を尋ねたところ、二才で動物園にきたのち、六年間飼育していたが、いまだに、どちらがオスかメスなのかは、さっぱり解らない、と言われた。その記者は〝性別も判らないものを〟と、そこに取材のネライをつけ、ないしょで当園に性別の判定を尋ねてきたという次第だった。

鳥では、クジャクのオスは羽を広げ、キジ、ニワトリもオスは大きく美しい衣裳をまとっているのはご存知のことだが、ツル、コウノトリ、ハクチョウ、タカ、カラス、スズメ、ハトと記していくと、外見では判別できないものの方がよほど多いのがお解りのはず。この話しの獣類つまり肉食動物となると、さらに見分けにくい。

しかし、「ライオンにはタテガミが」と、おっしゃるだろうが、あれほど素人眼にもはっきり区別できるのは、数多い獣類のなかではライオンぐらいなもので、トラ、ヒョウ、ピューマ、チーター、それに、キツネ、タヌキ、ハイエナ、オオカミのたぐいにいたっては、まず、体の色あいなどでは区別できるものではない。さらに難かしいのがニホングマ、マーレグマ、それにお尋ねのシロクマである。ところで、総じて体格が、がっちり大きく、特に肩とアゴの発達がめぐまれているのがオスでメスはやや小さい傾向があること、飼育するうち、性格的にある程度の区別がつくこと、などがあるが、結局は、オスの〝象徴〟そのものを、つきとめることにつきる。

だから、危険な猛獣の〝そのもの〟を手を下さず如何にうまくのぞくかというところに、プロ飼育者の腕の見せどころがある。

もし、そのシロクマが生後三ケ月位までの子グマであれば、ひっくり返せば素人でも、しかりと判るが、七～八才と言えば立派な成獣、からだをひっくり返すわけにもゆくまいし、さりとて、鉄格子の移動檻に入れ、オリの下から〝のぞく〟のもめんどうな話。

北極の王者シロクマは、たしかに毛が深くオスもメスも、その体力的には区別がつけがたいのだが、動物園では、一日のうち、あれだけプールで泳ぐ彼等であっても、用便だけは、わざわざ陸上ですます。そこに〝ネライ〟をつければ……。

もう、ここまで話せばお解りだろう。オシッコをするのを根気よく待つことである。まさか犬のように電柱にひっかけるのを、オスと言うわけにはいかなくとも、〝とびだす〟位置がちがう。（ただし、ネコ科は別）

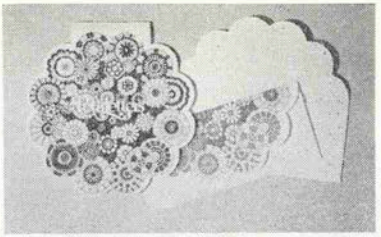
物事に警戒すると、ごらんのとおりひょいと立ち上がる

ここで別の手を話すのをよそうかとも思ったのだが……。クマの一番好む、ご馳走もった係員がオリの前を素通りするか、逆に一番恐しがるトタン板の音でもさせたら、彼等は、ばーと立ちあがって身がまえる。そこをカメラでパチリ——。ともかく、似合の一番で、まことに揃った大きさ。しかも、仲のいい子獣で輸入されたものなら、まず、その二頭は〝きょうだい〟ではないか、同性ではないだろうか、などをチェックするぐらいは、プロとしての〝定石〟なのであるが……と、言ってやった。果して、その記者は、〝シロクマのオシッコ〟を首尾よくキャッチしただろうか……。

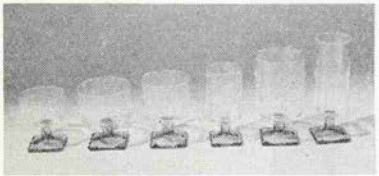
（王子動物園飼育係／写真も）

★ホテルなどでじゅたんの静電気が起る場合に使うのがこのストップ・ショック。スプレー状で乾燥したおへやにふりまくともう大丈夫です。 <690円>

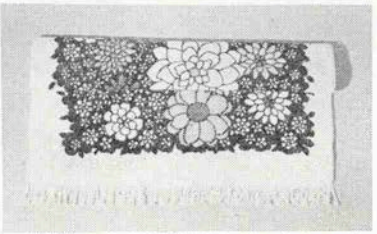
★お嫁に行く時持って行くと一生使える鉄製のフライパン。ステーキを焼くとおいしい！直経15cm～25cmまで。 <850～1650円>



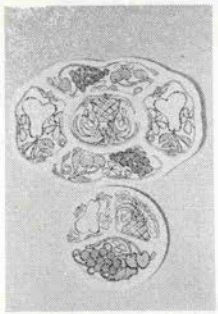
★お花のデザインがかわいい、めずらしい型のレターペーパーと封筒。お友達へのプレゼントにいかが。 <各々 440円>



★ながーいのやら巾広いのやらちっちゃいのやらいろんな大きさなのにゼーンブ <350円> なのです。イチゴクリームや、かき氷やお花なんかも入れてネ。



★やわらわく軽快な肌ざわりと、黒と白とオレンジとイエローと、とってもカラフルなお花のバスタオル。 <1200円>



★ピクニックやガーディンパーティにフルーツの絵がいっぱいのお皿。何回も洗えるし安いし軽いのでケイタイ用にも便利です。 <大490円 小80円>

AMERICAN PHARMACY

＝アメリカン・ファーマシー＝

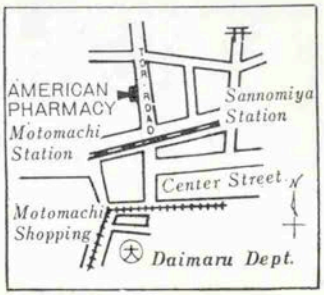
神戸市生田区下山手通３丁目36

☆

STORE HOURS : 9:00—7:00 (Regular) 11:00— 6:00 (Holiday)

☆

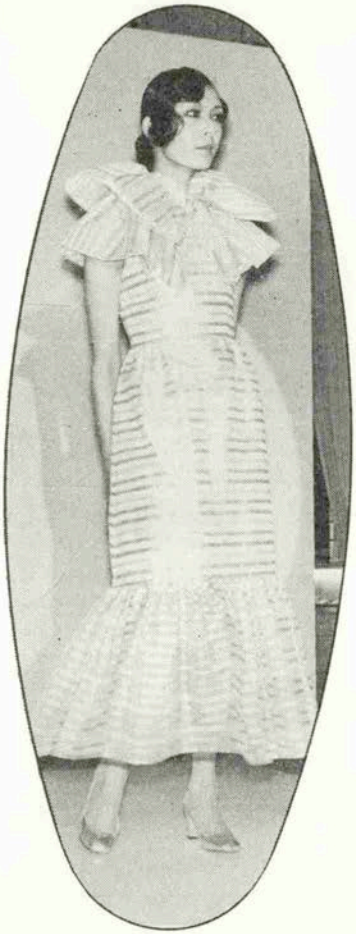
KOBE : TOR ROAD IKUTA—KU TEL (39) 1384・5224 (33) 1352
（大丸１F・エコノミーコーナーにもあります）
TOKYO : HIBIYA PARK BLDG. CHIYODA—KU TEL (271) 4034



●ファッション・エッセイ 6——ジュリーとファッション——

脱ぐ時代から着る時代へ

芦田　淳 〈ファッション・デザイナー〉



★今まで宝石のお酒落といえば、一般的にはパールが主。でもパールのブローチをつけることでかえって古くさくやぼったくみえることもありました。その古めかしいイメージを完全に打ち破り、宝石の持つ高貴さと現代をいかに結びつけていくかを考えました。宝石が金持の嫌らしさとして出るのではなく、デリケイトな神経を使った上でサラリと見せる、それが都会的なお酒落の真随でしょう。例えばホットパンツに真珠でも。非常に冒険のようですが、宝石に対する固定観念を打ち破り、現代的なフリーダムな表現で楽しく装ってはどうでしょうか。パールに合わせるドレスの色も黒にとらわれず、肌色に似たアプリコット色も宝石を美しく見せる色です。グレーのような渋い色調に宝石をつけるのもミセスのお酒落の一つ。片側だけのイヤリングやスーツの半袖にブローチをつけるなど若い形を出したつけ方によって、宝石の新しい魅力を引き出し、ドレスに格調を添えるものです。

時代がどう変っても、下品という言葉が一つの魅力となったりする時代ですけれども、それもタッチの強い強烈な感じという意味であって、気品が永遠の美のテーマであることは間違いありません。宝石の持つ真実の美しさは素晴しいと思います。

（写真はミキモト・オリジナル・ジューリーショーより。ドレス・デザイン・芦田淳）

初夏の青空に輝やく色彩の世界がひろがります。

モデル／永井れい子〈K．F．G〉

Summer Flash

Serizawa

＊婦人服飾・紳士服飾＊

セリザワ

神戸

大丸前紳士服飾店
大丸前婦人服飾店
三宮センター街店
さんちかタウン店
さんプラザ店

東京

東急百貨店日本橋店
東急百貨店渋谷店
池袋パルコ店

大阪

梅田阪急三番街店

京都

藤井大丸店

姫路

やまとやしき店

鮮やかな色合いが
フランス《ドーメル》の
シックなトーンで
冴えるネックポイント

ネクタイの
元町バザー
神戸・元町1丁目
TEL (33) 1401
(33) 7031
東京 東急百貨店
渋谷本店／日本橋店

本格派の人々が

愛するフレッシュな

靴のヨシオカ

サマーオリジナル

★靴のオーダーメード

ヨシオカ

■神戸店 大丸前 33−5190・9763
■東京店 東急百貨店
渋 谷 462−3436(直)
日本橋 211−0511(代)
■池 袋 パルコ 987−0577

緑と花々の変奏曲に
ハイブロウな暮しを彩る

贈りものにヨーロッパから
セレクトした品々を
とり揃えております。

★

SANOHE

元町２丁目浜側　TEL．33－4707－8

Salon Elégant
SANOHE

神戸トアロード　TEL．33－1952

神戸そごう３Ｆ特選サロン
サノヘコーナー

大阪阪急百貨店２Ｆ
ショップインＧ．Ｌコーナー

イタリーからのプレゼント

イタリーから手描きの美しい色彩とロマンチックな陶器が届きました。
ヨーロッパを旅して１つ１つ吟味して選んできた商品は、お宝の楽しいアクセサリーとしてテーブルの主役に、壁や柱のアクセントに……。
時計から調味料入れ、かわいい果物や野花の置き物までジョリカセットのなかにいっぱい。
ぜひ１度ごらん下さいませ。

杉田　みどり

★★舶来洋品雑貨直輸入★★

ジョリ カセット

★サロンド・ベール会員になられますと数々の
特典がございます。お申し込みは芦屋店へ

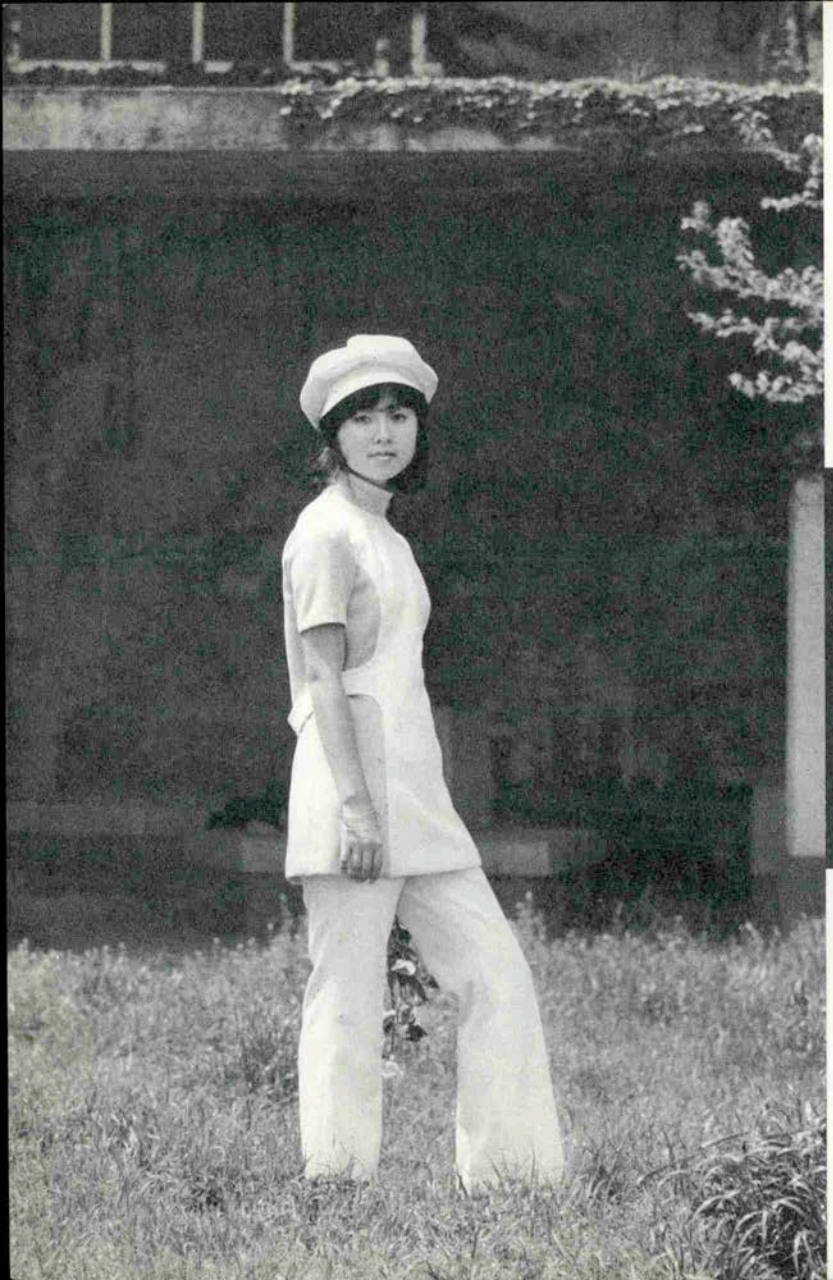
★芦屋店
芦屋市平田北町２－12ヴィラ芦屋
ＴＥＬ（0797）31－１２２４
★神戸阪急店　★銀座コリドー街店
★大阪そごう店　★横浜スカイビル
★京都藤井大丸店　★池袋パルコ店

靴と舶来雑貨

みどりの芝生のガーデンで
チェスを楽しむひととき。
真紅のアロハが夏のいこいの
リラックスなムードを創ります。

クロス

神戸トア・ロード　TEL 39－1781(代)
さんちかレディスタウン　TEL 39－2562
大阪阪神百貨店　TEL 361－1201



夏のたよりは
緑の葉蔭をぬって
風が運んでくる
さわやかな白が
目にしむ季節です。

シックな貴女を創るオーダーサロン

Soen 装苑

藤井まつ子

大丸前店　生田区三宮町３丁目17　TEL〈33〉7550
京町店　生田区三宮町１丁目17　TEL〈33〉2038
六甲店　灘区将軍通３丁目4-24　TEL〈87〉8303

モデル・川村浩子さん
帽子／マキシン提供　メイク／ベニー毛皮化粧品部